

第 1 回 九頭竜川自然再生計画検討会

議事骨子

日 時 : 平成 19 年 6 月 8 日 (金) 15:00 ~ 17:00

場 所 : 福井県国際交流会館 3 階 特別会議室

1. 開会挨拶

国土交通省 福井河川国道事務所長より、開会の挨拶がありました。

2. 検討会構成員の紹介

事務局より、九頭竜川自然再生計画検討会の構成員 11 名の氏名、役職について紹介がありました。

3. 検討会の設立について

事務局より、検討会の設立趣意、規約(案)の説明があり、「九頭竜川自然再生計画検討会」規約については、事務局の案のとおり承認されました。

4. 座長選出について

規約第 4 条 4 項に基づき、細田構成員が座長に選出され、細田座長より挨拶がありました。

5. 検討会の公開等について

事務局より、情報公開(案)について説明があり、会議資料の公開、議事録の公開、一般傍聴者について、事務局の案のとおり承認されました。

6. 九頭竜川の現状と課題について

事務局より、水際環境保全・再生(九頭竜川下流域)、砂礫河原再生(九頭竜川中流域)、支川・水路連続性再生(九頭竜川、日野川)について、それぞれの現状と課題の説明がありました。

また、九頭竜川の現状と課題について、各構成員から以下のような質問や意見がだされました。

- ・ 治水との兼ね合いがあると思うので、河川整備計画で今後 20 年ぐらいの間にどういことが対象区間で行われるのかを知りたい。
次回以降、主要な地点における断面図や写真等でご説明させて頂く。
- ・ 自然再生事業の対象範囲について、河川敷内全体を念頭においた堤外地の部分を対象にするのか、それとも、支川・水路の連続性の再生でいうと、堤内地の水路や水田までその範囲を広げるのか。

基本的には、堤外地での落差解消や水際の高水敷一部カットと考えているが、施

工区域についても、この検討会でご指導、ご助言等を頂きたい。

- ・ 河川敷の中に湿地等の多様な環境を創出し、河川敷内の自然全体を考えるような自然再生を検討するのであれば、非常にありがたい。
- ・ 中州や河岸浸食のメカニズムや湾曲部の深掘れ・堆積について、解析を含めた検討をしてもらった方がいい。
- ・ 検討会に入る前に、現場を全体的に視察して頂いて、その中でいろいろ検討した方がいいのではないか。

第1回の検討会終えて、7月上旬には現地視察ということで、ご説明した事業の実施区域の状況等を把握して頂こうと考えている。

- ・ コアジサシについては、福井県では姿を見ることが珍しくなりつつある。これにかわるものとして、イカルチドリやイソシギが見られる。
- ・ ダム放流量を増やすことはできるのか。増やせる可能性があるのであれば、定量的な評価もやらないといけない。

平常時にはフラッシュ放流等で真名川ダムが試験をやっているが、洪水時に流量を増やすのは、高水計画や操作規則等の状況もあり、なかなか難しい。

- ・ 人為的な草刈りの攪乱によって、堤防周辺のフジバカマは減ることはなく、それほど問題ではない。
- ・ カワラヨモギとかカワラハハコとか、礫河原に生育する河川植物については、裸地面積との兼ね合いで、非常に減少してきている。
- ・ 中流域の砂礫河原の再生について、ここでの目標は、景観的に砂礫河原があればいいのか、それとも、アラレガコやコアジサシ等の生き物が再び個体数を増やすところまでもっていくのか、その辺をある程度決めておく必要がある。
- ・ 本川と支川の間には障害がある場合とない場合について、魚類相がどう違うのか等、データを提供しながら、この場で議論していくというような進め方が一番いいのではないか。

次回以降、データを提供できるところは順次提供して、ご検討頂きたいと考えている。

7. 今後の予定について

事務局より、今後の予定について、現地視察会を7月上旬頃に行い、その後、年に数回程度このような検討会を開催する等、自然再生計画策定（平成20年度予定）までのスケジュールについて、お知らせがありました。

8. 閉会挨拶

国土交通省 近畿地方整備局 河川環境課長より、閉会の挨拶がありました。